

スポーツ現場の EAP (緊急時対応計画)

選手が突然倒れたり、頭頸部のケガや熱中症など緊急事態が発生した場合、皆さんは迅速に適切な対応ができるでしょうか？いざというときに慌てないために、AEDは誰が運ぶのか？救急車は誰が呼ぶのか？など、事前に決めておく必要があります。

【EAP (緊急時対応計画) とは？】

EAPとはEmergency Action Planの略で、スポーツ現場で事故が発生した際に、適切かつ迅速な対応をするために「事前に対応計画を立てておくこと」です。

その目的は、「医療関係者(医師・救急救命士・トレーナー)が常駐していない場合でも、救護体制を構築できるように事前に作成し、有事の際に最善の処置・対応を行うこと」です。

【EPA に向けての事前準備】

1. 予期されるケガ、病気

頭部外傷、熱中症など起こりえるケガや病気を想定しておきましょう。

2. 必要な器材の準備

応急処置に必要な器材を確認し準備しましょう。

3. 処置の方法

心肺蘇生法、ケガの処理、担架での搬送などができるように、定期的に救命講習を受講しておきましょう。

【EAP 作成における確認事項】

日本 AED 財団のホームページ EAP 作成ガイドラインやテンプレート(図1)が、に示されています(<https://aed-zaidan.jp/download.html>)。

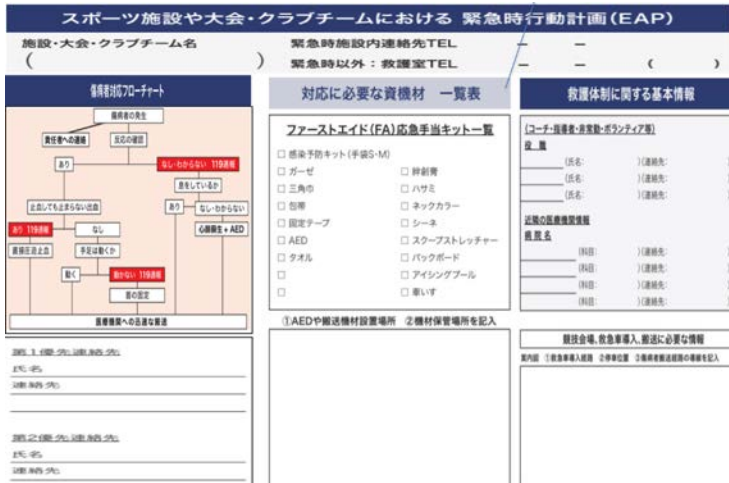


図 1 EAP テンプレート

以下の項目を確認し、EPA に記載しましょう。

1. 活動場所の名称・住所

119 番通報時に正確に伝えられるように確認しておきましょう。

2. 役割と人員配置

誰が指揮を執るか、AED を持ってくるか、119 番通報するか、あらかじめ役割分担(リーダー、応急手当、119 番通報、AED 確保、救急隊誘導など)を決めておきましょう。

3. AED 設置場所

設置場所とグラウンドまでの所要時間を確認しておきましょう。AED を 2 分以内に届けられる環境が望ましいとされています。

4. 救急車搬入・搬送経路

救急車が安全かつ迅速に搬入・搬送できる経路や停車位置を確認しましょう。

5. 近隣の医療機関の情報

試合会場から近い医療機関の情報を記入しておきましょう。

6. 傷病者発生時の対応フローチャート (図 2)

現場で対応可能なのか、病院受診が必要か、救急車を呼んだ方がいいかなど、状況に応じた対応ができるようにフローチャートを記載しておきましょう。

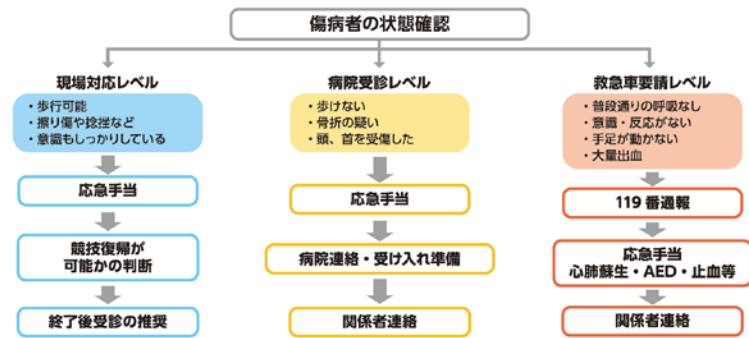


図 2 傷病者発生時の対応フローチャート

【最後に】

作成した EPA は見やすい場所に掲示し、その場で活動する全員が共有できるようにしましょう。また、救護統括担当者は試合前に審判、チーム関係者、施設側と EPA の情報を確認することも重要です。

普段の活動でも緊急事態は起こりえますので、最低限 AED の設置場所を確認するように心がけましょう。

青森県サッカー協会 医学委員長
山本 祐司 (つがる総合病院整形外科)